

# 令和6年度第2回紀南地域高等学校活性化推進協議会

## 配 付 資 料

- 令和6年度紀南地域高等学校活性化推進協議会委員名簿・・・・・・・・・・ P 1
  - 紀南地域高等学校活性化推進協議会設置要綱・・・・・・・・・・ P 2
  - 【資料1】 令和6年度第1回紀南地域高等学校活性化推進協議会の概要・・・・ P 3
  - 【資料2】 熊野青藍高等学校 学校説明会について・・・・・・・・・・ P 5
  - 【資料3】 紀南地域の中学校卒業生数と県立高等学校入学者数（全日制）の推移 P 7
  - 【資料4】 東紀州地域の高等学校への進学希望者数・・・・・・・・・・ P 8
- 
- 熊野青藍高等学校について
- 
- 【資料5】 熊野青藍高等学校スクール・ポリシー・・・・・・・・・・ P11
  - 【資料6】 各学科（系列・コース）の学びについて・・・・・・・・・・ P13
  - 【資料7】 全日制課程の各学科（系列・コース）についての Q&A・・・・・・・・ P17
  - 【資料8】 三重大学等の外部機関と連携した学びについて・・・・・・・・ P21
  - 【資料9】 キャリア教育プログラムについて・・・・・・・・・・ P23
  - 【資料10】 令和7年度の部活動について・・・・・・・・・・ P27
  - 【資料11】 校歌・校章について・・・・・・・・・・ P29
  - 【資料12】 入学者選抜について・・・・・・・・・・ P31
  - 【資料13】 開校式・入学式について（案）・・・・・・・・・・ P32

## 令和6年度 紀南地域高等学校活性化推進協議会 委員名簿

No		所属及び名前
1	学識経験者	三重大学教育学部 教授 平山 大輔
2	地域有識者	熊野商工会議所 青年部幹事 森本 健一
3		文恵丸水産 代表 長山 行文
4		紀宝町商工会 理事 産屋敷 道博
5	市町教育委員会	熊野市教育委員会 教育長 倉本 勝也
6		御浜町教育委員会 教育長 辻本 誠一
7		紀宝町教育委員会 教育長 西 章
8	小中学校PTA代表	紀南PTA連合会 会長 大倉 正宗
9		紀南PTA連合会 進路研究副委員長 尾崎 俊信
10	高等学校PTA代表	県立木本高等学校PTA 会長 道前 涼太
11		県立紀南高等学校PTA 会長 藤田 信吾
12	同窓会・地域代表	県立木本高等学校同窓会 会長 森岡 忠雄
13		県立紀南高等学校 学校運営協議会 会長 山本 章彦
14	小中学校長代表	熊野市立井戸小学校 校長 松田 有紀
15		熊野市立有馬中学校 校長 伴 充
16	小中学校教員代表	御浜町立御浜小学校 教諭 木下 雄介
17		熊野市立木本中学校 教諭 杉谷 賢吾
18	県立高等学校長	県立木本高等学校 校長 福田 英成
19		県立紀南高等学校 校長 辻 孝明
20	県立高等学校教員代表	県立紀南高等学校 教諭 込谷 徳隆

## 紀南地域高等学校活性化推進協議会設置要綱

### (設 置)

第1条 少子化などの社会の変化が著しい中、紀南地域における高等学校の特色化、魅力化を図るとともに、生徒にとって魅力ある学習環境を整備するため、紀南地域高等学校活性化推進協議会（以下、「協議会」という。）を設置する。

### (所掌事項)

第2条 協議会は、次に掲げる事項について具体的に検討し、協議する。

- (1) 今後の紀南地域全体における県立高等学校のあり方に関する事
- (2) 紀南地域の県立高等学校活性化の方策に関する事
- (3) 施設・設備に関する事
- (4) その他検討を要する事

### (組 織)

第3条 協議会は、学識経験者、地域有識者、小中学校PTA関係者、高等学校PTA関係者、関係市町教育委員会教育長、小中学校長代表、県立学校長代表、教職員代表等で組織する。

- 2 協議会に、会長、副会長を置く。
- 3 会長及び副会長は、委員の中から互選により決める。
- 4 会長は会務を総理し、副会長は会長を補佐し会長に事故ある時は職務を代行する。
- 5 協議会は、必要に応じて関係者の出席を求め、意見を聞くことができる。

### (調査委員会)

第4条 協議会のもとに、必要に応じて調査委員会を設置する。

- 2 調査委員会は、テーマに応じて会長の指名する関係者で構成する。

### (会 議)

第5条 協議会は、会長が招集し、会長が議事運営する。

- 2 協議会の庶務は県教育委員会事務局において処理する。

### (その他)

第6条 この要綱に定めるもののほか、協議会の運営に関する事項は会長が定める。

### 附 則

この要綱は平成24年 7月18日から施行する。

この要綱は平成29年 6月12日から施行する。

令和 6 年度第 1 回紀南地域高等学校活性化推進協議会の概要

1 日時 令和 6 年 8 月 5 日（月） 19 時 00 分から 21 時 06 分まで

2 場所 御浜町役場 くろしおホール

3 概要

令和 7 年度に木本高校と紀南高校を統合して開校する熊野青藍高校について、両校の校長をリーダーとするワーキング会議における検討状況を報告し、学びや部活動のあり方などについて協議を行いました。

主な意見は次のとおりです。

《熊野青藍高校の学びについて》

※WL＝熊野青藍高等学校ワーキングリーダー（木本高等学校長、紀南高等学校長）

- 小中学校では、地域について学び、そのよさを伝えることができる子どもたちを育てようとしている。熊野青藍高校においても、熊野の歴史や文化を学ぶ機会を設けることで、地域への愛着を形成し、将来地域で活躍する人材の育成をめざしてほしい。
- 熊野には、豊かな自然や文化遺産など魅力がたくさんあるものの、世間に十分に伝わっていないと感じている。地域を題材として学ぶ「東紀州未来学」では、企業など外部の方とも連携し、イベントの実施や商品開発を通じて、地域の発展と魅力発信に取り組んでほしい。
- 探究的な学びや「東紀州未来学」は、熊野青藍高校の大きな強みとなるはずだが、具体的な中身が伝わってこない。和歌山県の高校への進学を希望する中学生もいる中、学んだことが大学進学や就職など将来の進路にどのようにつながるのかも含め、子どもたちにもっとわかりやすく新校の魅力を伝えてほしい。
- 木本高校には多くの大学からの指定校推薦があると思うが、熊野青藍高校へも引き継がれるのか。また、総合学科や紀南校舎も対象となるのか。  
⇒（WL）木本高校と紀南高校にいただいている指定校推薦や求人については、基本的に熊野青藍高校へも引き継がれるものと考えている。対象となる学科や校舎は大学や企業側が定めることとなるが、できるだけ幅広い生徒が対象となるよう要望していきたい。
- 不登校の子どもたちの増加に対しては、これまで木本高校の定時制が重要な役割を果たしてきた。熊野青藍高校の定時制は、通信制との連携も含め、どのような形になっていくのか。  
⇒（WL）近年、木本高校定時制の在籍者数が増加しており、そのニーズの高まりを実感している。熊野青藍高校の定時制でもその役割をしっかりと引き継ぐとともに、松阪高校通信制との併修により 3 年間での卒業が可能であることもしっかりと発信していきたい。

- 新宮高校と新翔高校の統合により令和8年4月に開校する和歌山県の新校は、全日制に普通科、学彩探究科、総合学科の3学科を設置し、総合学科の自立支援系コースや定時制、通信制も前面に出して、きめ細かな指導を希望する生徒のニーズにも応える「オールインワンの学校」として打ち出している。紀南地域唯一の高校となる熊野青藍高校についても、定時制も含めて幅広いニーズに応える高校として、中学生や保護者、地域住民へ分かりやすく情報発信してほしい。
- ⇒ (WL) オープンスクール等において、各学科や校舎における学びの特色に加え、令和6年度から紀南高校で行っている通級指導を引き継いでいくことなどを、中学生や保護者にしっかりと説明していきたい。

#### 《部活動について》

- 部活動の合同活動について、部ごとに活動時間が異なると思うが、校舎間を移動するバスはどのように運行されるのか。また、バスの運行業務は誰が担うのか。
- ⇒ (WL) 行き帰りとも、各校舎発で1便ずつ運行できるよう予算要望中であり、帰りの紀南校舎発のバスは熊野市駅、木本校舎発のバスは阿田和駅経由として利便性を高める予定である。バスを利用する生徒は、そのバスの運行時間にあわせて活動することとなる。また、バスの運行については、教職員ではなく業者に委託する予定である。

#### 《入学者選抜について》

- 現在、紀南高校は、「保護者の転住を伴わない県外からの入学志願に関する要項」が定める「入学志願できる高等学校」の対象校となっているが、木本高校は対象となっていない。和歌山県立新宮高校が令和7年度から「学彩探究科」において全国募集を実施することもあるので、熊野青藍高校では、両校舎を対象として県外からの入学志願を可能としてほしい。
- ⇒ (事務局) 令和7年度については、引き続き紀南校舎において実施できるよう同要項の改定をおこなった。県外生徒の受入れは、生徒が互いにより影響を受けて成長でき、学校の活性化にもつながる一方で、県内生徒の進路選択への影響が考えられる場合もある。令和8年度以降の対応については、いただいた意見も参考にあらためて検討したい。

## 熊野青藍高等学校 学校説明会について

### 1 熊野青藍高等学校オープンスクール（令和6年8月20日）

午前：木本校舎 参加生徒 204名

午後：紀南校舎 参加生徒 98名 ※両校舎参加生徒79名



＜参加者アンケートより＞一部抜粋

- (1) なぜ、熊野青藍高校（木本・紀南校舎）のオープンスクールに参加しようと思いましたか？
  - 木本校舎：木本校舎を希望している（66.7%）、他の高校と比較しなかったから（27.6%）
  - 紀南校舎：紀南校舎を希望している（26.5%）、他の高校と比較しなかったから（62.2%）
  
- (2) 学校説明を通じて、熊野青藍高等学校（木本・紀南校舎）を理解することができましたか？
  - 木本校舎：理解できた（69.1%）、少し理解できた（29.1%）
  - 紀南校舎：理解できた（71.9%）、少し理解できた（28.1%）
  
- (3) 本日のオープンスクールはあなたの進路を考える上で参考になりましたか？
  - 木本校舎：参考になった（84.2%）、少しは参考になった（14.8%）
  - 紀南校舎：参考になった（87.2%）、少しは参考になった（12.8%）
  
- (4) あなたは進学する高校を選ぶときに、どのような点を重視しますか？
  - 木本校舎：①授業内容（76.0%）、②卒業後の進路実績（58.3%）、③部活動（54.4%）
  - 紀南校舎：①授業内容（66.3%）、②部活動（48.0%）、③卒業後の進路実績（40.8%）

## (5) オープンスクールの感想

### <学校説明について>

#### ○木本校舎

- ・どんな授業や校舎なのか知ることができた。
- ・スタンダードコースと特進の違いが来るまで分からなかったけど、説明が分かりやすかったです。
- ・学校説明では、学科やコースによる利点などを教えてくれたので、進路を考える上でとても参考になった。

#### ○紀南校舎

- ・学校のことをよくわかった。
- ・紀南校舎では木本校舎とは違った職業への取り組みや行事などがあってとてもよかった。
- ・色んな自分に合ったことを学べることを知った。

### <体験講座について>

#### ○木本校舎

- ・授業体験では、知らなかったことを分かりやすく教えてもらってよかった。先生の話も分かりやすかった。
- ・理科の授業では、一つ一つ丁寧に教えて頂いたのもとても分かりやすく、お礼の文字を探すのが楽しかったです。また、初めてのオープンスクール参加で緊張しましたが、同じ班の人とも話せて良かったです。

#### ○紀南校舎

- ・避難経路などを調べ尽くしている所がすごかった。
- ・社会の授業で、都道府県の名前を書くだけでなく、そこから何をよみとれるのかを考えるのがすごく楽しかった。

## 2 地域住民等を対象とした学校説明会

文化祭の一般公開に合わせ、次のとおり説明会を開催

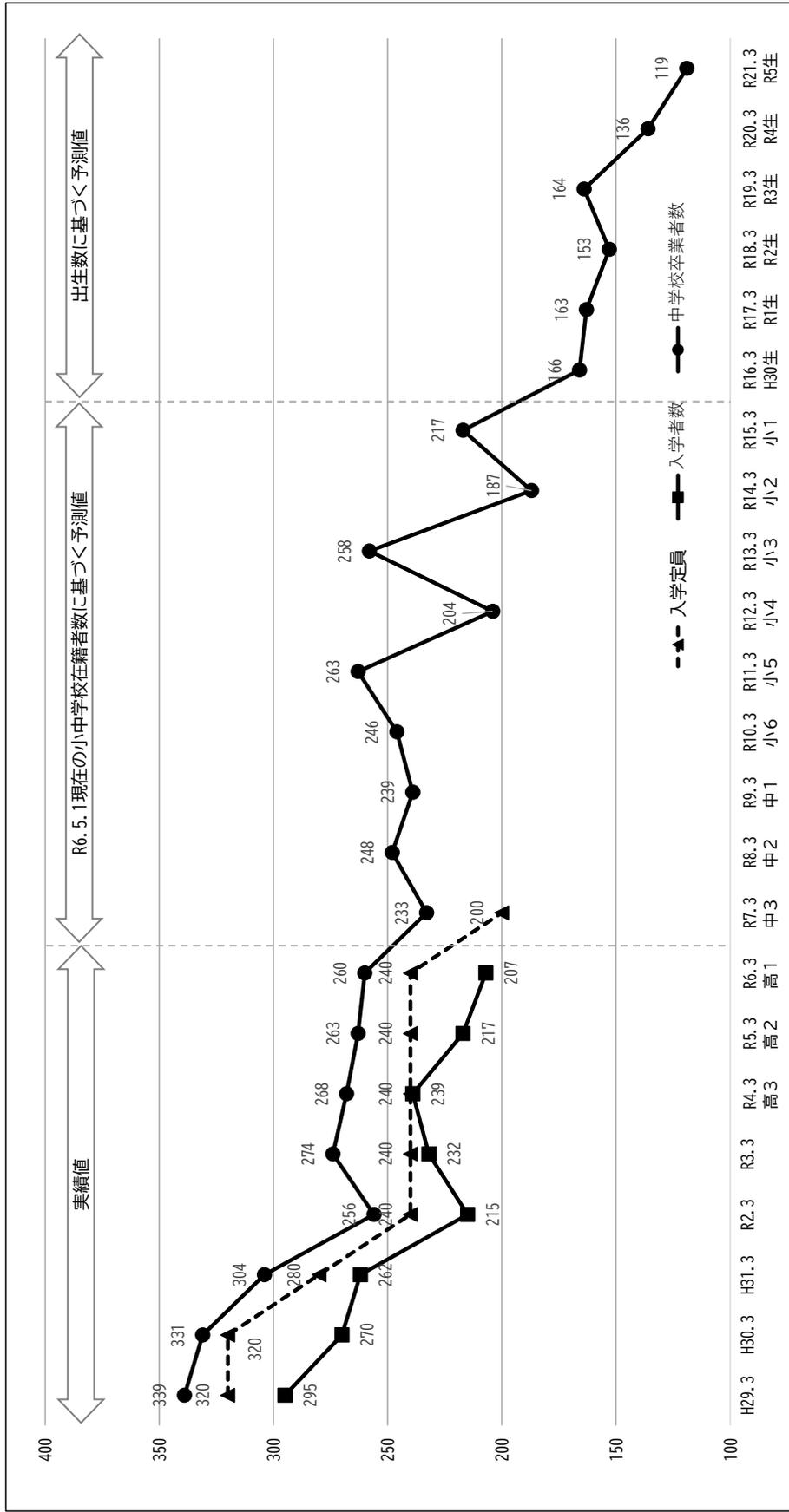
木本高校：9月28日（土）

紀南高校：11月16日（土）



【資料3】

紀南地域の中学校卒業者と県立高等学校入学者数（全日制）の推移



【紀南地域の出生数】

	H27年度生 現小3	H28年度生 現小2	H29年度生 現小1	H30年度生 5～6歳	R元年度生 4～5歳	R2年度生 3～4歳	R3年度生 2～3歳	R4年度生 1～2歳	R5年度生 0～1歳
熊野市	93	84	82	73	74	63	65	54	44
御浜町	52	42	45	39	25	20	38	29	28
紀宝町	102	83	75	71	53	53	61	56	37
合計	253	198	228	170	165	155	167	139	121
予測値	258	187	217	166	163	153	164	136	119

東紀州地域の高等学校への進学希望者数（令和6年7月希望調査）  
R7.3卒(現中学3年生)

高等学校名	各地域別の進学希望者数と入学者数																											
	R7 入学 定員		熊野市			御浜町			紀宝町			希望 者数 小計			尾鷲市			紀北町			希望 者数 小計		希望 者数 合計					
	7月	12月	入学数	7月	12月	入学数	7月	12月	入学数	7月	12月	入学数	7月	12月	入学数	7月	12月	入学数	7月	12月	入学数	7月	12月	入学数	7月	12月	入学数	
熊野青藍 高校	160	76		35			37					148	13						4								17	165
	40	1		17			10				28	1							0								1	29
	200	77		52			47				176	14							4								18	194
尾鷲高校	160	1		0			0				1	69							28								97	98
東紀州地域の計	360	78		52			47			177	83								32								115	292
全日 制	地域外県立高校		2				1			5	5								29								34	39
	県内 私立高校		5				1			6	6								8								9	15
	県内 高専		1				1			4	4								1								2	6
県外 県外高校・高専 <small>(うち和歌山県)※</small>		4				18			29	29									2								8	37
その他(定時制/通信制/就職など)		8				2			12	12									4								13	25
回答・入学者数の計		98		65		70			233	233									76								181	414

東紀州地域の高等学校への進学希望者数（令和5年7月・12月希望調査）と令和6年度入学者数 R6.3卒(現高校1年生)

高等学校名	R6 入学 定員		各地域別の進学希望者数と入学者数												入学者 小計	入学者 合計		
	熊野市			御浜町			紀宝町			尾鷲市			紀北町					
	7月	12月	入学者	7月	12月	入学者	7月	12月	入学者	7月	12月	入学者	7月	12月			入学者	
木本高校	84	82	83	40	38	38	45	25	26	26	26	16	13	12	2	2	14	161
紀南高校	8	9	8	9	9	9	23	28	26	26	26	2	1	1	0	0	1	44
尾鷲高校	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	79	78	78	48	53	133	134
東紀州地域の計	92	91	92	49	47	47	68	53	52	52	52	97	92	91	53	55	148	339
全	1	2	2	2	2	2	0	1	1	1	1	5	3	7	24	23	29	34
日	3	3	2	0	1	1	1	1	1	1	1	4	5	6	7	5	10	14
制	0	0	0	0	0	0	0	1	1	1	1	51	6	1	3	2	3	4
県外	3	3	2	8	10	10	15	29	29	29	29	3	4	4	0	0	4	45
県外高校・高専 (うち和歌山県)※			(1)			(8)			(28)	(28)	(37)			(0)			(0)	(37)
その他(定時制/通信制/就職など)	8	8	9	2	1	1	8	7	8	8	18	10	10	11	6	8	19	37
回答・入学者数の計	107	107	107	61	61	61	92	92	92	92	260	120	120	120	91	93	213	473

※和歌山県への進学

(私) 近大新宮高校1人

(私) 近大新宮高校8人

(公) 新宮高校3人  
(公) 新翔高校1人  
(公) 熊野高校1人  
(公) 日高高校中津分校1人  
(私) 近大新宮高校22人

<参考> 東紀州地域外の全日制高校・高専への進学人数とその理由

【調査対象】令和6年3月の中学校卒業生【調査方法】教育政策課による各中学校(熊野市・御浜町・紀宝町)への聞き取り

主たる進学理由	※部活動の種類		
	大学進学	部活動	就職
3市町合計	51	25	0
(うち近大新宮)	(31)	(14)	(0)

※部活動の種類  
野球、サッカー、ソフトテニス、  
バスケットボール、柔道、剣道、空手

東紀州地域の高等学校への進学希望者数（令和4年7月・12月希望調査）と令和5年度入学者数  
R5.3卒(現高校2年生)

高等学校名	R5 入学 定員	各地域別の進学希望者数と入学者数														入学数 小計	入学数 合計		
		熊野市			御浜町			紀宝町			尾鷲市			紀北町					
		7月	12月	入学数	7月	12月	入学数	7月	12月	入学数	7月	12月	入学数	7月	12月			入学数	
木本高校	160	71	66	66	45	36	33	43	31	30	129	9	7	7	6	2	2	9	138
紀南高校	80	9	10	9	25	28	31	22	25	28	68	3	5	6	3	2	2	8	76
尾鷲高校	160	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	90	89	89	53	49	48	137	137
東紀州地域の計	400	80	76	75	70	64	64	65	56	58	197	102	101	102	62	54	52	154	351
全		1	0	1	3	3	4	0	4	4	9	5	5	4	24	20	18	22	31
日		3	4	3	1	3	3	3	1	0	6	2	4	4	9	18	20	24	30
制		1	2	2	0	0	0	0	0	0	2	1	0	0	1	0	0	0	2
県外		5	9	10	3	5	5	15	22	20	35	5	3	4	2	3	3	7	42
県外高校・高専 (うち和歌山県)※				(7)			(4)			(19)	(30)						(0)	(0)	(30)
その他(定時制/通信制/就職など)		10	10	10	1	3	3	0	0	1	14	6	7	6	1	5	7	13	27
回答・入学者数の計		100	101	101	78	78	79	83	83	83	263	121	120	120	99	100	100	220	483

※和歌山県への進学

(私) 近大新宮高校7人

(私) 近大新宮高校4人

(公) 新宮高校6人  
(公) 新翔高校1人  
(私) 近大新宮高校12人

<参考> 東紀州地域外の全日制高校・高専への進学者数とその理由

【調査対象】令和5年3月の中学校卒業者【調査方法】教育政策課による各中学校(熊野市・御浜町・紀宝町)への聞き取り

主たる進学理由	進学の種類		
	大学進学	部活動	就職
3市町合計	24	19	0
(うち近大新宮)	(19)	(3)	(0)
その他			9
			(1)

※部活動の種類  
野球、サッカー、ソフトテニス、  
バスケットボール、ソフトボール、  
卓球、ダンスなど

## 熊野青藍高等学校スクール・ポリシー

### 熊野青藍高等学校（全日制）



#### グラデュエーション・ポリシー（育みたい資質・能力、生徒の姿）

- ・自己肯定感を高め、夢や目標の実現に向けて主体的に学び続ける生徒
- ・人との出会い・つながりを大切に、互いのよさを生かして協力・協働する生徒
- ・自分の可能性を信じ、何事にも積極的に挑戦し未来を切り拓くことができる生徒

#### カリキュラム・ポリシー（高校での教育活動）

- ・「仲間とつながる」「地域とつながる」「全国・世界とつながる」を学びのコンセプトとする。
- ・2校舎の独自性を大切にしつつ、統合により連携を強化して学びを充実させる。
- ・幅広い選択科目を設置し、個に応じたきめ細かな教育を実現する。
- ・「防災・減災・復旧・復興」がキーワードの防災教育を始め、地域社会での課題解決を目指す探究活動『東紀州未来学』を実施する。

#### アドミッション・ポリシー（入学時に求める生徒の姿）

##### 【普通科】

- ・志望動機が明確で、高校生活にしっかりとした目標・目的意識を持つ生徒（特に、明確な進路意識を持って、その実現のために努力を継続できる生徒）
- ・普通科での学習活動に積極的に取り組める生徒（特に、共通教科を中心とした普通科での学習に取り組むために必要な基礎学力や興味・関心、学習意欲等を有する生徒）

##### 【総合学科】

- ・志望動機が明確で、高校生活にしっかりとした目標・目的意識を持つ生徒
- ・総合学科での学習活動に積極的に取り組める生徒
- ・特に、スポーツ活動や文化活動、生徒会活動、ボランティア活動または地域に密着した活動等に意欲的に取り組んできた経験や、それらについての優れた実績や能力があり、入学後もその活動を生かして学校生活を送ることができる生徒

熊野青藍高等学校（定時制）



**グラデュエーション・ポリシー**（育みたい資質・能力、生徒の姿）

- ・自己肯定感を高め、夢や目標の実現に向けて主体的に学び続ける生徒
- ・人との出会い・つながりを大切にし、互いのよさを生かして協力・協働する生徒
- ・自分の可能性を信じ、何事にも積極的に挑戦し未来を切り拓くことができる生徒

**カリキュラム・ポリシー**（高校での教育活動）

- ・「仲間とつながる」「地域とつながる」「全国・世界とつながる」を学びのコンセプトとする。
- ・学習意欲を高め、基礎学力定着を図り、生徒が希望する進路を実現する。
- ・学校や社会で生活するために大切な規範意識と社会性を育む。

**アドミッション・ポリシー**（入学時に求める生徒の姿）

- ・本校の学習環境や学校生活の仕組み等について基本的事項を理解している生徒。
- ・本校での学習に取り組むために必要な基礎学力や学習意欲、目的意識等を有している生徒。
- ・本校での学校生活に必要な規範意識や基本的な生活習慣が身についている生徒。

## 各学科(系列・コース)の学びについて

### I 全日制

#### 1 普通科(木本校舎)

- 入学時から教育課程が異なる2つのコースに分かれ、希望進路に応じた教科を学ぶ。
- 授業はもとより放課後や長期休業中の進学補習の充実により、各自の興味・関心に応じた学びを深める。
- 探究的な学びを充実できるよう、総合型選抜も視野に入れた三重大学や地域との連携を進める。

#### (1) 特進コース

- ・ 三重大学、三重県立看護大学をはじめとする国公立大学や難関私立大学への進学を目標に、日々の授業を通じ、生徒の学ぶ意欲や学問分野への興味・関心を高める。
- ・ 特に三重大学には、医学部・教育学部の地域枠推薦制度も活用して多くの合格をめざし、将来医療や教育の分野において、地域社会で活躍できる人材を育成する。
- ・ 難関大学に合格できる学力をつけるため、普段の授業や進学補習、夏季集中セミナー等で早期から発展的な学習に取り組みながら、主体的に学ぶ力を育成する。
- ・ 「特進コース担任会」や「進路検討会」等を計画的に実施し、個々の生徒の成績と必要な受験対策等を多面的に検討し、個別面談等を通じた質の高いアドバイスでサポートする。

#### (2) 普通コース

- ・ 大学、短大、看護・医療系専門学校、公務員、就職等、幅広い進路希望の実現するための力を育成する。
- ・ 高校生活の中で、体験的な活動や部活動などで総合的な人間力を高め、多面的な努力の成果を蓄積し、学校推薦型選抜や総合型選抜などでも活用する。
- ・ 「総合的な探究の時間」等において、地域の人との出会いやつながりを大切にし、互いの良さを生かして、地域の諸課題への対応を考える学習等に取り組み、卒業後、いったん地元を離れても、将来は地域の担い手として活躍できるよう、総合的な人間力を高める。

## 2 総合学科（木本校舎・紀南校舎）

- 「産業社会と人間」や「総合的な探究の時間」などにおいて、防災や産業の活性化など地域社会の課題解決をめざす探究活動「東紀州未来学」に取り組む。
- 2年生以降は、多くの専門科目や学校設定科目を含む多彩な選択科目群から、自己の興味・関心や進路希望等に応じて科目を選択して学ぶ。
- 両校舎の合同発表会等により互いの学びの成果を共有するとともに、仲間とのつながりを広げ深める。

〈木本校舎〉◆：コースの概要 ★：想定している進路、職業 ◎：特徴的な科目

### (1) 情報ビジネス系列（情報ビジネスコース）

- ◆ 商業系の専門学科に近い学習内容で、パソコンや簿記・会計等の資格取得をめざす。
- ★ 事務系の就職、本校で身に付けた知識・技術を伸ばすための進学
- ◎ 「ソフトウェア活用」「ネットワーク活用」「簿記」「情報処理」

### (2) リベラルアーツ系列

- ・ 国語・数学・英語等の共通教科やスポーツ・芸術系科目等から幅広く選択して学ぶ。
- ・ 「科目選択例」の一部として、以下のような4つのコースが挙げられる。

#### ① 総合進学コース

- ◆ 大学や専門学校等への合格と、進学後も学習で困らないための学力を身に付ける。
- ★ 主に文系の大学・短大、看護・医療系以外の専門学校
- ◎ 「国際英語」「国語表現」「日本史探究」「化学基礎」「自然と環境（学）」

#### ② 芸術教養コース

- ◆ 芸術科科目を中心に自己の趣味や特技を広げ伸ばしながら、幅広い教養を身に付ける。
- ★ 就職や、芸術系の大学・短大・専門学校等
- ◎ 「芸術Ⅱ」「音楽研究」「書道創作」「ペン習字」

#### ③ 家庭教養コース

- ◆ 家庭科科目を中心に自己の趣味や特技を広げ伸ばしながら、幅広い教養を身に付ける。
- ★ 就職や、被服・保育・調理系の大学・短大・専門学校
- ◎ 「フードデザイン」「服飾手芸」「保育基礎」「生活教養」

#### ④ 総合スポーツコース

- ◆ 保健体育科科目を中心に、多様なスポーツに親しみ、アスリートとしての力を高める。
- ★ 就職や、体育・保健系の大学・短大・専門学校等
- ◎ 「スポーツ総合演習」「スポーツⅡ」「スポーツⅥ」

〈紀南校舎〉◆：コースの概要 ★：想定している進路、職業 ◎：特徴的な科目  
(3) 地域デザイン系列（進学希望者対象）

- ・ 四年制大学や短期大学、専門学校に進学して専門的な学びをしたのち、地域に戻って地元の活性化に貢献できるよう課題解決能力などの資質・能力を育成する。
- ・ ふるさとを想い、地域が抱える課題を解決するために学びを深め、将来は東紀州地域を担い活躍できる生徒を育成する。

(4) 産業マイスター系列（就職希望者対象）

- ・ 農林水産業や土木建設業、商業など様々な地域産業に携わる人材の輩出をめざして、地元をはじめ県内外の事業所等で活躍できるよう社会生活に必要な資質・能力を育成する。
- ・ ふるさとを想い、国内外のあらゆる場所で働きながら、将来は東紀州地域を担い活躍できる生徒を育成する。

※以下の科目の選択例である「コース」は、系列に依らず選択できる

① 総合進学コース

- ◆ 四年制大学や短期大学、専門学校への進学および、公務員を希望する生徒が選択する。
- ★ 公務員、保育士など
- ◎ 地理総合、地域創造学、地域産業とみかん、社会事情

② 医療・看護コース

- ◆ 看護学校や理学療法士、作業療法士となるための専門学校へ進学希望の生徒が選択する。
- ★ 看護師、理学療法士、作業療法士など
- ◎ 数学Ⅰ演習、生物基礎、演習数学、生物

③ 福祉コース

- ◆ 「介護職員初任者研修」の取得や介護福祉施設への就職、福祉系の大学等への進学を希望する生徒が選択する。
- ★ 社会福祉士、介護福祉士など
- ◎ 社会福祉基礎、介護福祉基礎、生活支援技術、こころとからだの理解

④ ビジネスコース

- ◆ 専門学校への進学や就職に必要な、幅広い知識を身につけたい生徒が選択する。
- ◎ ビジネス基礎、情報処理

⑤ コミュニケーションコース

- ◆ 通級による指導を通してコミュニケーション等、社会で必要な力を身につけたい生徒が選択する。
- ◎ ソーシャル・コミュニケーションA・B

## Ⅱ 定時制

### 普通科（木本校舎）

#### ○ 少人数で安心して学べる環境

全日制のような大人数での学校生活に不安を感じる人も、安心して学ぶことができます。生徒一人ひとりの個性を理解し、生徒と教職員の信頼関係を大切にした、丁寧な指導を重視しています。学校生活を通して、自分が大切な存在であることを実感するとともに、相手を大切にする心を育みます。

#### ○ 多様な学習ニーズに対応

授業は1限が45分間で、1日4限。18時に始まり、21時15分に終了し、4年間での高校卒業を目指します。比較的ゆったりとした時間の流れの中で、自分のペースで学習を進めることができるのが定時制の魅力です。二学期制（前期：4月～9月、後期：10月～3月）で、半期ごとに単位認定しているため、単位の修得状況によっては4年次の前期末での卒業も可能です。また、単位制であるため前籍校で履修した科目や修得した単位も本校の卒業要件として有効です。

#### ○ 通信制との連携併修で、3年間での卒業も可能

定時制での単位修得とあわせて、2・3年次に松阪高等学校通信制の授業を併修し単位を修得することで、3年間での卒業も可能です。連携併修の授業は、1限目開始前（17時5分～17時55分）に本校で行われ、本校の教職員がレポートの作成を支援します。また、定期考査も本校で受験することができるため、松阪高等学校へのスクーリングの必要はありません。ふだん学校で授業をしている先生が支援するので、質問もしやすく安心して学習を進めることができます。

#### ○ 学び直しからスタートし、学ぶ喜びを実感

義務教育段階での学習に不安があっても大丈夫です。授業ではこれまでの学習内容の学び直しをしっかりと行ったうえで、生徒の状況にあわせて、比較的ゆっくりとしたペースで、一つ一つ確実に学習を積み重ねていきます。これまで分からなかったことが、分かるようになり、教職員や仲間とともに学ぶ喜びを実感することができます。

#### ○ アルバイトも可能で、自分の時間を有効活用

夕方からの授業なので、昼間は正規の仕事はもちろんアルバイトをすることも可能です。仕事やアルバイトを通して得られるものもたくさんあり、社会的・職業的自立のためにも働くことを奨励しています。また、昼間は家でゆっくり自分の時間を過ごして、夕方からの授業に備える生徒もいます。

#### ○ 「この学校に来てよかった」

卒業時に、生徒や保護者等が「この学校に来てよかった」と思ってもらえることが教職員の願いです。そのために、学校での学びを通して、生徒一人ひとりと信頼関係を構築することを大切にしています。人との出会い・つながりを大切にした、あたたかい学校です。

## 全日制課程 各学科（系列・コース）についてのQ&A

### ○普通科（コース名が変わる〈特進コース〉について）

#### Q1 「選抜コース」の名称が「特進コース」に変わるのなぜですか？

A1 コース分けの際の「選抜」よりも、大学進学に特化したコースだとわかるようにしました。

#### Q2 コース名が変わって、学ぶ内容も変わるのですか？

A2 特進コースの内容は、選抜コースと大きく変わるわけではありません。すなわち、文系・理系のどちらにも対応できるカリキュラムの中で、各自の受験に必要な科目を中心に選択し、発展的な内容も含めて学びます。そのため、文系科目中心の普通コースと比べ、進学先の選択肢が大きく広がります。また、大学入学共通テストの科目もしっかりとカバーしています。



夏季集中セミナー(数学講座)

#### Q3 特進コースの特色は何ですか？

A3 いろいろありますが、主に以下のことが挙げられます。

- ①大学進学に対し、より重点を置いたカリキュラム
- ②高大連携講座や総合的な探究の時間での三重大学との連携、三重大学地域枠推薦の活用など、大学と連携した学び
- ③一般選抜だけでなく指定校推薦等などの多様な入試制度も積極的に活用した進路実現
- ④3年間同じ仲間とともに学び合える環境で、学習だけでなく学校行事等にも全力！
- ⑤学習と部活動を両立する生徒も多数（昨年度選抜コース生は約80%が部活動にも加入）



文化祭での選抜コース生による劇

#### Q4 特進コースの目標は？

A 4 変化の激しい現代社会において、主体的に学び続け、様々な人と協働しながら、答えのない課題に対して失敗を恐れずにチャレンジする人材の育成を目標とし、その通過点の一つとして、国公立大学や難関私立大学への合格があります。生徒の皆さんには自分の進路をしっかりと見つめ、「入れる大学」よりも「自分が本当に入りたい大学」への入学をめざしてほしいと思います。その進路実現のために前述のカリキュラムや「コース担任会議」はじめとした、大学進学に重きを置いた進路指導体制により、生徒一人ひとりの学力を伸ばします。また、進路に関わらず、「将来のためにしっかりと勉強しておきたいから」と考えて希望される方も大歓迎です。

#### Q5 選抜コースは、大学の一般選抜(学力試験が中心)で合格するためのコースだったので、大学の指定校推薦枠は、普通科では主に普通コースの生徒向けですか？

A 5 木本高校の「選抜コース」は、一般選抜で難関大学に合格するための学力をつけるコースというイメージが強いようですが、ここ数年で大学入試も変化し、国公立大学においても総合型選抜をはじめ、多様な形態の入試を実施しています。そのため、自身の進路実現のため、自分の強みを生かし推薦入試や総合型選抜を活用する生徒も珍しくありません。指定校推薦枠も「学びたい大学」で学ぶ方法の一つですので、特進コースにおいても生徒の進路希望に合わせ、必要に応じ指定校推薦枠等の活用も含めて、幅広い視点で進路指導をしていきます。



三重大大学の先生による特別講義

#### Q6 大学進学希望であっても、難関大学でなければ、特進コースじゃなくてもいいですか？

A 6 難関大学に限らず、多くの大学では、高校までにしっかりとした学力をつけた生徒が、大学入学後も学び続ける意欲や目的意識を持って入学してくれることを期待しています。そのことは、大学関係者のお話や、指定校推薦等の推薦要件などにも現れています。そのため、将来の大学進学を考えている人には、めざす大学の難易度に関わらず、大学入学後に必要な力をつけるためにも、ぜひ特進コースをお勧めします。

## ○総合学科(コース名が大きく変わる木本校舎について)

### Q7 「情報ビジネス系列」では、どんなことを学ぶのですか？

A7 パソコンや会計など、実社会ですぐに役立つ資格の取得をめざす系列で、「商業科に近い」内容です。木本高校の「キャリアコース」と大きく変わることはありません。



キャリアコースでのパソコンの授業

### Q8 「リベラルアーツ系列」では、どんなことを学ぶのですか？

A8 木本高校の「スタンダードコース」をベースとした「リベラルアーツ系列」は、普通科と同じような国語・数学・英語などの共通教科の科目や、芸術・スポーツ・家庭の専門科目などの幅広い科目の中から、自分が学びたいことを選んで学ぶ系列です。科目選択の仕方によって、普通科に近い進学向けの学習もできますし、上記の専門科目を中心にした学習もできるほか、「いろんな分野を少しずつ（広く浅く）」のような選択の仕方でもできます。

### Q9 そもそも「リベラルアーツ」って何ですか？

A9 様々に定義されていますが、本来は、古代ギリシャで誕生した「言語系3学（文法・論理・修辞）」と「数学系4学（算術・幾何・天文・音楽）」で構成される「自由7科（seven liberal arts）」のことです。別のところでは、「個人の能力を開花させ、困難や多様性、変化に対応する力を身につけさせ、科学や文化、社会などの幅広い知識とともに、より深い専門知識を習得させるための学習方法」とも定義されています。



総合的な探究の時間の校内発表

### Q10 「リベラルアーツ系列」という名称にしたのはなぜですか？

A10 2000年代に入って、多くの大学でリベラルアーツに関する学部も開設されるようになりました。リベラルアーツ教育は、幅広い知識と多角的な視点を養うことを目的としており、現代のグローバル社会において非常に重要視されています。本校でも、高校段階ではありますが、この系列がそうした幅広い学びの場になってほしいとの願いを込めて、この名称にしました。

○総合学科(普通科から総合学科へ変更となる紀南校舎について)

**Q11 「総合進学コース」「医療・看護コース」「福祉コース」「ビジネスコース」「コミュニケーションコース」は、それぞれ「地域デザイン系列」「産業マイスター系列」のどちらの系列で選択できますか？**

A11 5つのコースはどちらの系列でも選択できます。科目選択のモデルによって5つのコースに分かれていますが、系列やコースに関係なく授業を選ぶことができます。

**Q12 紀南校舎の授業の特徴は？**

A12 「就労体験」「地域産業とみかん」「地域創造学」のように、地域を学びの場として、体験的に学ぶ科目が充実しています。



就労体験



地域産業とみかん



地域創造学

**Q13 コミュニケーションコースでは、どんなことを学ぶのですか？**

A13 紀南校舎では、「通級による指導」を実施します。「通級による指導」は、学習や生活上の困難を改善・克服することを目的としています。

※コミュニケーションコースでは、コミュニケーション等、社会で必要な力を身につけたい生徒が、「通級による指導」科目「ソーシャル・コミュニケーション」を選択し学びます。



ソーシャル・  
コミュニケーション

## 三重大学等の外部機関と連携した学びについて

### 1 紀南高校における「地域産業とみかん」での連携

#### (1) 令和6年度の「地域産業とみかん」について

- ・ 2年生17名、3年生8名が、月曜日の5・6限目に受講
- ・ 年間で17回程度、果樹研究所やみかん園地で生育の観察や収穫作業などを体験し、かんきつ栽培について学習予定
- ・ 新規就農者との出会いを通じて、地域の魅力の再発見につなげる

#### (2) 外部との連携について

##### ① 三重大学

「紀南オープンフィールド構想によるみどりのアントレプレナー共創拠点」に関連して、三重大学が「地域産業とみかん」の授業においてドローンや農業用無人車の自動走飛行実演を行う。

11月11日(月)の授業では、三重大学の藤山宗准教授らの協力のもと、金山パイロットファームでドローンと農業用無人車R150の操縦体験を行った。生徒たちは、ドローンの遠隔操作や自動化の可能性に驚き、「人手不足の解決策になる」との意見が多く寄せられた。また、無人車R150の多機能性に触れ、「収穫機能を追加することで労働負担が軽減される」と考えた生徒もいる。これらの体験を通じて、生徒たちは最新技術が農業に与える影響を実感し、未来の農業に対する関心が高まった。

##### ② 三重県南部地域振興局

「南部の地域課題解決型フィールドワーク」に参加する4名の大学生等が、「みかん」を生かして地域の知名度を上げる取組を行い、「地域産業とみかん」の授業で生徒と共に活動する。

9月9日(月)の授業では、「南部の地域課題解決型フィールドワーク」に参加する4名の大学生とともに収穫作業を行った。同月には放課後に1時間程度の交流会を2回、10～11月にはオンラインでの交流を2回行い、「みかん」を生かした地域の知名度を上げるための多くのアイデアが生まれた。これにより、地域の魅力を再発見し、未来への希望を感じる貴重な機会となった。さらに、2月にはこれまでのアイデアを実現し、地域の知名度を高める活動を行う予定である。

### (3) 今後の展開

#### ① 三重大学における総合型選抜の導入について

三重大学で、令和9年度入学生（令和6年度高校1年生が対象）から導入する総合型選抜に向け、生物資源学部教員と連携を取り、生物資源学部のアドミッションポリシーに沿った「地域産業とみかん」の授業づくりへの、大学教員の参画を目指す。

#### ② 令和7年度のカリキュラムについて

熊野青藍高校1年生全員が、「総合的な探究の時間」や「産業社会と人間」等の中で探究の問いやテーマ設定について学ぶ。紀南校舎では、2年生で「地域産業とみかん」を受講した生徒がテーマに基づいた探究的な学習を行い、さらに3年生で「地域創造学」も受講した生徒が、総合型選抜に向けて探究的な学習をさらに深められるようにカリキュラムの構築を検討していく。

## 2 三重大学大学院生物資源学研究科主催「環境農林水産フォーラム」への参加

- ・ 令和6年7月18日（木） 熊野市文化交流センター
- ・ 三重大学生物資源学研究科立花義裕教授による異常気象に係る講演
- ・ 農業・林業・水産業の現場における気候変動への対応に係る講演
- ・ 高校生と三重大学生とによる課題解決に向けたワークショップ
- ・ 木本高校生24名が参加



## 3 木本高校における三重大学による「総合的な探究の時間」の授業

- ・ 2年生1組（29名）が受講
- ・ 三重大学教員による地域課題に関する講義（令和6年8月20・21日）
- ・ 生徒が9グループに分かれ、7分野（歴史、観光、経済、教育、農業、情報、医療）からテーマを1つ選び、大学生とともに紀南地域活性化のアイデアについて議論（9月～11月にかけて3回）
- ・ 今後も三重大学の学生が授業に参加し、年度末の成果発表に向け、生徒の探究を進めていく

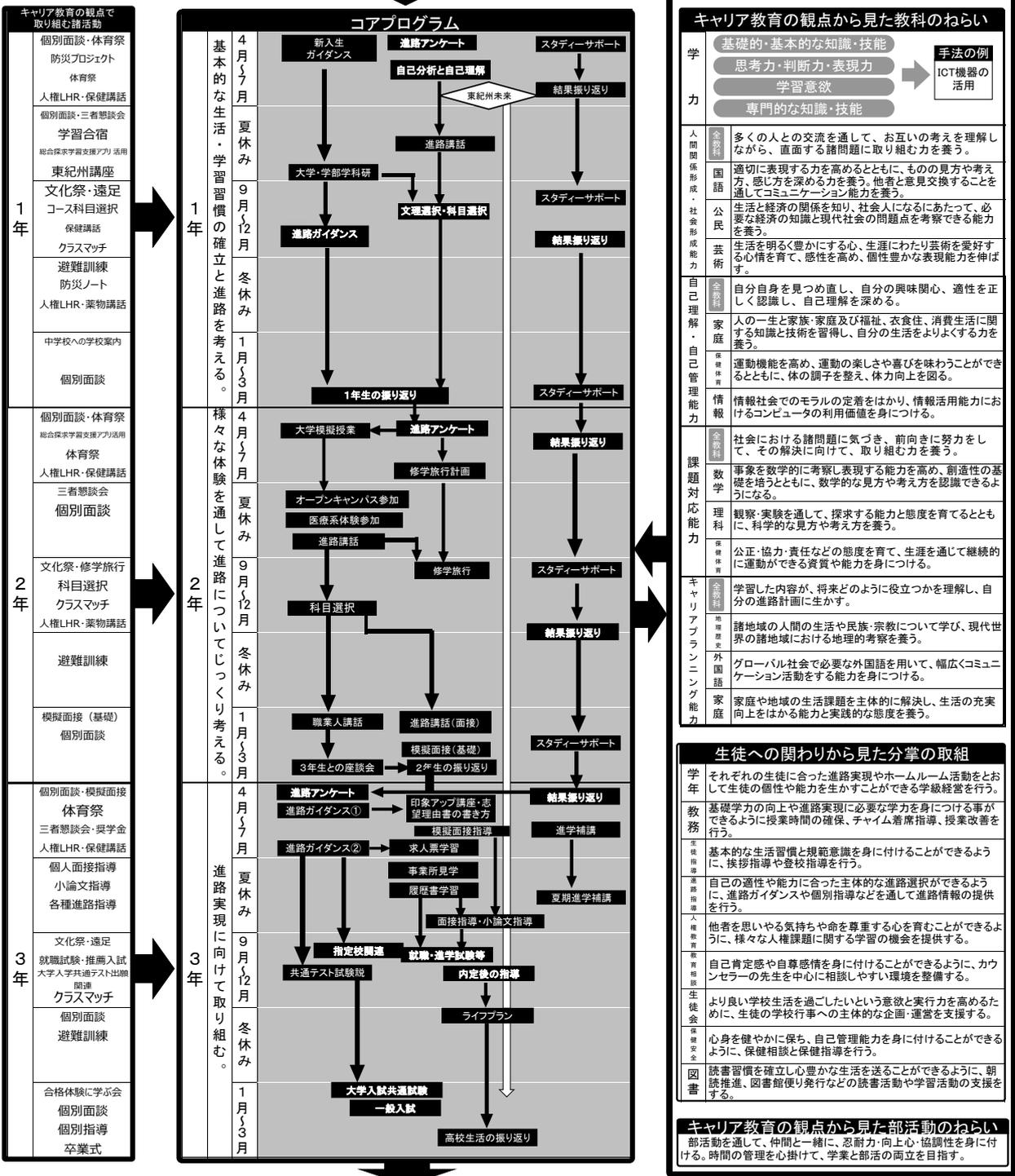
# キャリア教育プログラムについて

三重県立熊野青藍高等学校 全日制課程 普通科（木本校舎）キャリア教育プログラム

将来の姿 **持続可能な社会の一員として、ふるさとを想い、未来に希望を持って幸福を実現する人材** 将来の姿

キャリア教育をとおして身に付けたい力				
学力	人間関係形成・社会形成能力	自己理解・自己管理能力	課題対応能力	キャリアプランニング能力
○基礎的・基本的な知識・技能に基づいた思考力・判断力・表現力 ○自ら律することができる学習意欲	○他者を認めコミュニケーションできる力 ○自らの視野を広げ、社会に参画しようとする力	○基本的な生活習慣を確立する力 ○自己の役割を理解し、主体的に行動する力	○日常生活の課題に向き合う力 ○自ら課題を設定し、その課題を解決する力	○生きることで働くこととの関係を理解する力 ○社会貢献に向けて自らの将来を設計できる力

入学前の働きかけ オープンスクール(高校生活入門講座) 熊野青藍高校進学説明会 中学校と高校の教員による情報共有



卒業後の接続 事業所訪問による定着確認 卒業生の進学先の大学との情報交換

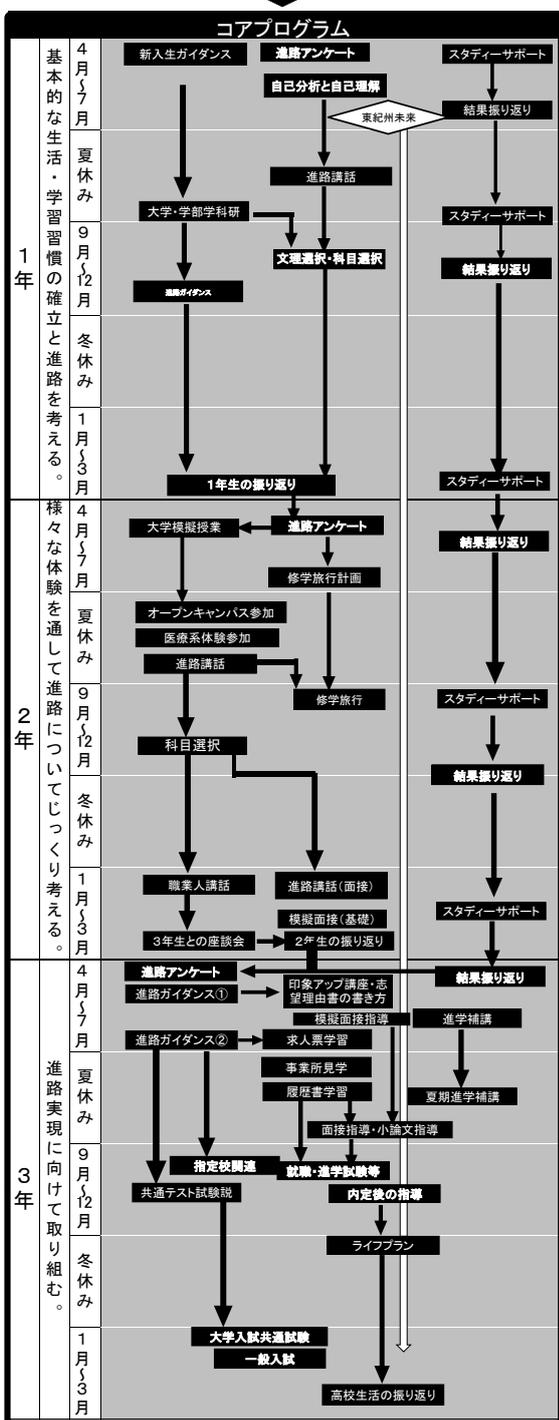
三重県立熊野青藍高等学校 全日課程 総合学科（木本校舎）キャリア教育プログラム

将来の姿 **持続可能な社会の一員として、ふるさとを想い、未来に希望を持って幸福を実現する人材** 将来の姿

キャリア教育をとおして身に付けたい力				
学力	人間関係形成・社会形成能力	自己理解・自己管理能力	課題対応能力	キャリアプランニング能力
○基礎的・基本的な知識・技能 ○思考力・判断力・表現力 ○学習意欲 ○専門的な知識・技能	○他者を認めコミュニケーションをとる力 ○自らの視野を広げ、社会に参画しようとする力	○基本的な生活習慣を確立する力 ○自己の役割を理解し、主体的に行動する力	○日常生活の課題に向き合う力 ○自ら課題を設定し、その課題を解決する力	○生きることで働くこととの関係を理解する力 ○社会貢献に向けて自らの将来を設計できる力

入学前の働きかけ オープンスクール(高校生活入門講座) 熊野青藍高校進学説明会 中学校と高校の教員による情報共有

年次	キャリア教育の観点で取り組む諸活動
1年	個別面談・体育祭 防災プロジェクト 体育祭 人権LHR・保健講話 個別面談・三者懇談会 総合探求学習支援アプリ活用 東紀州講座 文化祭・選足 コース科目選択 保健講話 クラスマッチ 避難訓練 防災ノート 人権LHR・薬物講話 中学校への学校案内 個別面談
2年	個別面談・体育祭 総合探求学習支援アプリ活用 体育祭 人権LHR・保健講話 三者懇談会 個別面談 文化祭・修学旅行 科目選択 クラスマッチ 人権LHR・薬物講話 避難訓練 模擬面接(基礎) 個別面談
3年	個別面談・模擬面接 体育祭 三者懇談会・奨学金 人権LHR・保健講話 個人面接指導 小論文指導 各種進路指導 文化祭・選足 就職試験・推薦入試 大学入学共通テスト出題 関連 クラスマッチ 個別面談 避難訓練 合格体験に学ぶ会 個別面談 個別指導 卒業式



キャリア教育の観点から見た教科のねらい	
学	基礎的・基本的な知識・技能 思考力・判断力・表現力 学習意欲 専門的な知識・技能
力	手法の例 ICT機器の活用
人間関係形成・社会形成能力	多くの人と交流を通して、お互いの考えを理解しながら、直面する諸問題に取り組み力を養う。
公民	適切に表現する力を高めるとともに、もの見方や考え方を、感じ方を深める力を養う。他者と意見交換することを通してコミュニケーション能力を養う。
芸術	生活と経済の関係を知り、社会人になるにあたって、必要な経済の知識と現代社会の問題点を考察できる能力を養う。
自己理解・自己管理能力	生活をもるく豊かにする心、生涯にわたり芸術を愛好する心情を育て、感性を高め、個性豊かな表現能力を伸ばす。
家庭	自分自身を見つめ直し、自分の興味関心、適性を正しく認識し、自己理解を深める。
情報	人の一生と家族・家庭及び福祉、衣食住、消費生活に関する知識と技術を習得し、自分の生活をよりよくする力を養う。
課題対応能力	運動機能を高め、運動の楽しさや喜びを味わうことができるとともに、体の調子を整え、体力向上を図る。
キャリアプランニング能力	情報社会でのモラルの定着をはかり、情報活用能力におけるコンピュータの利用価値を身につける。
数学	社会における諸問題に気づき、前向きに努力をして、その解決に向けて、取り組む力を養う。
理科	事象を数学的に考察し表現する能力を高め、創造性の基礎を培うとともに、数学的な見方や考え方を認識できるようにする。
外国語	観察・実験を通して、探求する能力と態度を育てるとともに、科学的な見方や考え方を養う。
家庭	公正・協力・責任などの態度を育て、生涯を通じて継続的に運動ができる資質や能力を身につける。
キャリアプランニング能力	学習した内容が、将来どのように役立つかを理解し、自分の進路計画に生かす。
外国語	諸地域の人間の生活や民族・宗教について学び、現代世界の諸地域における地理的考察を養う。
家庭	グローバル社会で必要な外国語を用いて、幅広くコミュニケーション活動をする能力を身につける。
キャリアプランニング能力	家庭や地域の生活課題を主体的に解決し、生活の充実向上をはかる能力と実践的な態度を養う。

生徒への関わりから見た分掌の取組	
学	それぞれの生徒に合った進路実現やホームルーム活動をおこなって生徒の個性や能力を生かすことができる学級経営を行う。
教務	基礎学力の向上や進路実現に必要な学力を身につける事ができるように授業時間の確保、チャイム着席指導、授業改善を行う。
生徒指導	基本的な生活習慣と規範意識を身に付けることができるように、挨拶指導や登校指導を行う。
進路指導	自己の適性や能力に合った主体的な進路選択ができるように、進路ガイダンスや個別指導などを通して進路情報の提供を行う。
人権教育	他者を思いやる気持ちや命を尊重する心を育てることができるように、様々な人権課題に関する学習の機会を提供する。
教育相談	自己肯定感や自尊感情を身に付けることができるように、カウンセラーの先生を中心に相談しやすい環境を整備する。
生徒会	より良い学校生活を過ごしたいという意欲と実行力を高めるために、生徒の学校行事への主体的な企画・運営を支援する。
保健安全	心身を健やかに保ち、自己管理能力を身に付けることができるように、保健相談と保健指導を行う。
図書	読書習慣を確立し心豊かな生活を送ることができるように、朝読推進、図書館発行などの読書活動や学習活動の支援をする。

キャリア教育の観点から見た部活動のねらい  
部活動を通して、仲間と一緒に、忍耐・向上心・協調性を身に付ける。時間の管理を心掛けて、学業と部活の両立を目指す。

卒業後の接続 事業所訪問による定着確認 卒業生の進学先の大学との情報交換

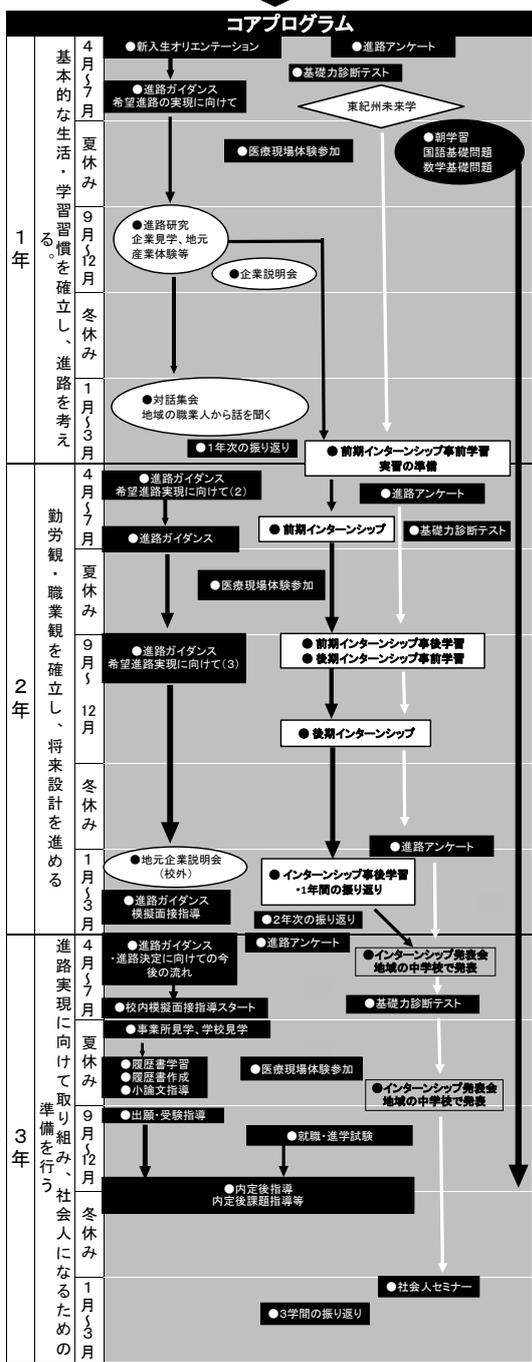
三重県立熊野青藍高等学校 全日課程 総合学科（紀南校舎）キャリア教育プログラム

将来の姿 持続可能な社会の一員として、ふるさとを想い、未来に希望を持って幸福を実現する人材 将来の姿

キャリア教育をとおして身に付けたい力			
学力	人間関係形成・社会形成能力	自己理解・自己管理能力	課題対応能力
○基礎的・基本的な知識技能 ○思考力・判断力・表現力 ○主体的に学習に向かう姿勢	○人との出会い、つながりを大切に、互いの良さを生かして協力・協働する力 ○自己理解を深め、他者の個性を尊重し、互いに認め合いながら行動する力	○自己の思いや意見を適切に伝え、他者の思いや意見を的確に理解する力 ○自己の職業的能力、適性を理解し、将来設計を図る力 ○自己の果たすべき役割や責任を理解し、主体的に行動する力	○多様な選択肢の中から、自己の意思と責任で当分の進路や学習を主体的に選択する力 ○希望する進路の実現に向け、自らの課題を設定し、その解決に向けて主体的に取り組む力
キャリアプランニング能力		課題対応能力	
○進路選択に向け、主体的に将来の生き方や生活を考える力 ○働くことの意義を理解し、将来設計を主体的に立案する力 ○社会人となるための準備を、将来の生き方や生活を踏まえおこなう力			

入学前の働きかけ ・高校生活入門講座 ・中学校別学校説明会 ・中学校と高校の教員による情報共有 ・中学生への情報発信 ・高校生による学習成果発表

学年	キャリア教育の観点で取り組む諸活動
1年	●個別面談（キャリアパスポート） ●人権学習 ●三者面談 ●人権学習 ●体育祭・文化祭 ●科目選択面談（キャリアパスポート） ●人権学習 ●個別面談（キャリアパスポート） ●学習成果発表会
2年	●個別面談（キャリアパスポート） ●人権学習 ●三者面談 ●人権学習 ●体育祭・文化祭 ●修学旅行 ●科目選択面談（キャリアパスポート） ●学習成果発表会
3年	●個別面談（キャリアパスポート） ●人権学習 ●三者面談 ●個別面談（キャリアパスポート） ●体育祭・文化祭 ●学習成果発表会



キャリア教育の観点から見た教科のねらい	
学 力	基礎的・基本的な知識・技能 思考力・判断力・表現力 主体的に学習に向かう力 手法の例 ICT機器の活用、主体的・対話的な学び
人間関係形成・社会形成能力	多くの人とのお会いを通して多様な考え方を知り、互いに切磋琢磨する。 将来、身近な場所で外国語による簡単なコミュニケーションを図ることができる力を身につける。 情報をコミュニケーションの手段として活用するための能力やマナー、モラルを身につける。 グループでの調理実習等を通して、協調性や、個性を発揮する姿勢を身につける。
自己理解・自己管理能力	自分自身を客観的に分析し、長所を伸ばし欠点を補うための方法を体得する。 自己を多面的に分析するとともに、場面に応じて自己を適切に表現するための態度と能力を身につける。 事象を数学的に考察・表現する力を身につけ、自身を含む身近な事柄を客観的に見つめる態度を養う。
家庭	生きるために必要な衣食住の在り方を学び、自立するための基礎的な力を身につける。
公民	自分に与えられた課題などに対し、前向きに努力し、確実に遂行する力を身につける。 現代社会の諸問題から、自らの課題に気づき、解決しようとする態度を養う。
芸術	与えられた芸術的テーマを正確に理解し、表現の技能を身に付け、意図に応じて創意工夫し主体的に表現する能力を養う。
保健	チーム競技や集団活動の中で、仲間と連携しながら目標に向かって努力する態度を身につける。
外国語	職場や学びの場で、他の文化と共生する中で、社会や自分の課題に気づき前向きに対応する姿勢を身につける。
キャリアプランニング能力	校内外での学びを通して自己の目標に応じた将来像を描き、自分の目標達成のために必要な力を身につける。 歴史上の人物や事象やグローバル社会の特徴を学ぶことなどを通して、自分自身の生き方と比較し、人生に生かす。
情報	実験や課題研究を計画して実行することで、自身の進路計画の立て方や情報収集能力を身につける。 情報が社会に及ぼす影響を理解し、情報を自己の将来設計に活用する力を育成する。
学 年	それぞれの学年における生徒自身の課題を解決できるよう、学級・学年経営を行う。
教 務	生徒のより良い「学び」の機会を保障するため、「学び」の質の向上とその機会を確保する。
進 路	生徒の自己肯定感・自己有用感を高め、進路実現に必要な能力や、卒業後の生活への適応力を育成するため、キャリア教育のさらなる充実を目指す。
生徒、	豊かな人間性の育成と基本的な生活習慣の体得を目指す。
人 権	不当な差別のない、人権が尊重されたよりよい社会を構築するために、自他の生命を大切に、主体的に実践行動ができることを目指す。
保 健	健康・安全に対する意識を高め、自律的な生活態度を育成するため、日常生活における悩みや不安への寄り添いと支援を行うとともに、校内美化等への意識向上と習慣づけを目指す。
図 書	読書習慣を持ち、主体的に調べ学習に取り組むことができるよう、教科との連携を深めるとともに、図書館だよりを定期的に発行するなど、図書館利用の促進を図る。
総 務	危機管理マニュアルの作成や防災訓練の計画などを通して、生徒が安心・安全に学校生活を送ることができるように努めるとともに、生徒の防災意識の向上を目指す。
<b>キャリア教育の観点から見た部活動のねらい</b> ・技術・知識や仲間とのコミュニケーション力を高める。 ・自己肯定感・自己有用感を育む。	

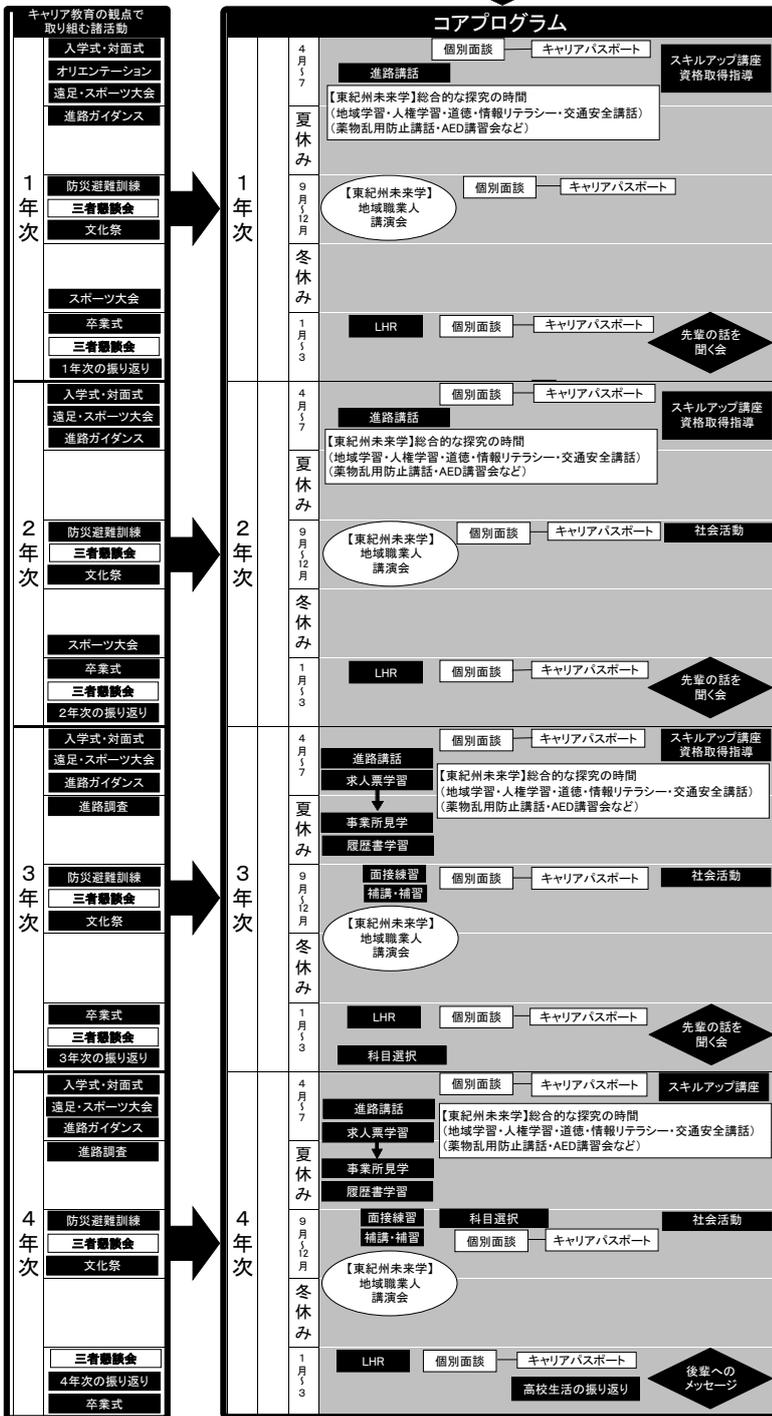
卒業後の接続 ・事業所訪問や電話による定着確認 ・卒業生の進学先との情報交換

三重県立熊野青藍高等学校 定時制課程 普通科（木本校舎）キャリア教育プログラム

将来の姿 **持続可能な社会の一員として、ふるさとを想い、未来に希望を持って、幸福を実現する人材** 将来の姿

キャリア教育をとおして身に付けたい力				
学力	人間関係形成・社会形成能力	自己理解・自己管理能力	課題対応能力	キャリアプランニング能力
○基礎的・基本的な知識・技能 ○思考力・判断力・表現力 ○学びに向かう力など	○他者を思いやり、大切にす力 ○社会に参画するための規範意識・社会性	○基本的な生活習慣を守り、自己を管理する力	○自ら情報を集め、選択する力 ○自ら課題を見つけ、解決に向けて努力する力	○自分の適性を理解し、進路を選択する力 ○地域を理解し、地域に貢献する力

入学前の働きかけ 中学校訪問/中学生および中学校教員の授業見学



卒業後の接続 事業所訪問・進学先への連絡などの定着指導を行う

キャリア教育の観点から見た教科のねらい

学	力	ねらい
学	基礎的・基本的な知識・技能	主体的・対話的な学びの推進
	思考力・判断力・表現力	
力	学びに向かう力 など	
人間関係形成・社会形成能力	全教科	それぞれの課題を理解し、他者との関係を構築する。
国語	国語	自分のことを客観的に理解し、他者とのつながりを大切に意思を伝達する力を身につける。
保健	保健	チーム競技や個人競技の対戦等を通じて他者を理解し、社会性を形成する。
外国語	外国語	コミュニケーション能力を身につけるとともに、外国語を通して異文化を学び、視野を広げる。
自己理解・自己管理能力	全教科	自分の適性を理解し、自己実現のために努力する力を身につける。
公民	公民	青年期の意義や自己を理解することを通じて自己実現を図る。
保健	保健	体育実技や講義を通じて自己の適性や健康管理の技能を養う。
情報	情報	情報機器の操作、ソフトウェアの活用を通じて表現力やマナー等を身につける。
課題対応能力	全教科	学習・修学意欲の定着を通じて自らの課題と向き合い、解決する力を身につける。
理科	理科	目的を持って自然現象を観察し、理解を深めることで課題解決のための能力、探究心を養う。
数学	数学	数学の社会的有用性を認識し、事象を数理的に考察する力を養い、数学を積極的に活用する態度を養う。
芸術	芸術	芸術作品の制作を通じて計画性、自己表現力を身につける。
キャリアプランニング能力	全教科	学習活動を通じて基礎学力や社会性を身につけ、自己実現に向けて努力を続ける力を養う。
政経	政経	労働に関する法律を学び、個人と働く環境を考える。
家庭	家庭	生活課題の解決のために必要な知識、能力を身につけ、家庭生活の向上をめざす。
情報	情報	情報の収集・発信を通じて自己実現のための知識や計画性を身につける。

キャリア教育の観点から見た分掌の取組

学年	ホームルーム活動や学校行事を通じてクラス・学校での人間関係を深め、主体性や社会性を育む。
教務	目標や計画を立て実践する力、学習に向かう姿勢を育むとともに、自主自律の精神を養う。
生徒指導	基本的な生活習慣や規範性を身につけ、社会で生活するための力を育む。
進路指導	個別指導や保護者面談を通じて生徒の能力、適性を理解することで適切な進路選択を支援する。
保健	現在そして将来の自分自身の健康を考え、行動できる力を育む。
人権	自他を尊重し、より良い人間関係を形成できる人権感覚を養う。
教育相談	生徒との対話を通じて、人間関係の構築を図るとともに、自己肯定感を養いながら、自己実現を支援する。
生徒会	学校行事等の生徒会活動を通じて他者との人間関係を深め、課題を解決する力を育む。

## 令和7年度の部活動について

令和6年11月29日

部活動名	設置・活動の有無		普段の活動場所等	大会等参加
	木本校舎	紀南校舎		
硬式野球	○	○	<ul style="list-style-type: none"> <li>令和7年度夏の選手権大会までは、熊野青藍1年生が紀南高校と連合を組む場合は、可能な限り紀南校舎で練習する。校舎別で出場する場合は、各校舎で練習する。</li> <li>令和7年度夏の選手権大会後は、平日・土日等とも紀南校舎グラウンド(ほぼ野球部専用)で合同練習する。必要に応じて、校舎別で練習する場合もある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>令和7年度(のみ)春季大会 熊野青藍高校の開校が大会期間途中のため、熊野青藍高校生(1年生)は参加できない(8年度以降は1年生も参加可)。</li> <li>令和7年度(のみ)夏の選手権大会 校舎別に参加する(木本・熊野青藍木本校舎と紀南・熊野青藍紀南校舎の2チーム)。</li> <li>ただし、紀南・熊野青藍紀南校舎の部員が10人未満のときは、木本(2・3年生)は単独で参加し、熊野青藍木本校舎(1年生)は紀南・熊野青藍紀南校舎との合同チームで参加する。</li> <li>その後の大会 全3校合同チーム(紀南・木本・熊野青藍)で参加する。</li> </ul>
ラグビー	○		<ul style="list-style-type: none"> <li>木本校舎で活動する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>令和7年4月から、木本・熊野青藍(両校舎)の合同チームで参加する。</li> </ul>
サッカー	○		<ul style="list-style-type: none"> <li>木本校舎で活動する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>令和7年4月から、木本・熊野青藍(両校舎)の合同チームで参加する。</li> </ul>
陸上競技		○	<ul style="list-style-type: none"> <li>熊野青藍高校生はどちらの校舎であっても熊野青藍高校の陸上競技部に入部することになるが、普段は地域クラブ「熊野RC」のメンバーとして、同クラブの練習場所(木本中学校等)に移動して練習する。</li> <li>必要に応じて、紀南校舎で練習する場合もある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>高体連等の公式大会には熊野青藍として参加する。</li> <li>その他の大会等には同クラブのメンバーまたは熊野青藍として参加する。</li> </ul>
ソフトテニス(男女)	○	○	<ul style="list-style-type: none"> <li>各校舎で活動する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>令和7年度は、校舎別に参加する(木本・熊野青藍木本校舎と紀南・熊野青藍紀南校舎の2チーム)。</li> </ul>
男子バスケットボール	○	○	<ul style="list-style-type: none"> <li>各校舎で活動する。必要に応じて、合同で練習する場合もある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>令和7年度は、校舎別に参加する(木本・熊野青藍木本校舎と紀南・熊野青藍紀南校舎の2チーム)。</li> </ul>
女子バドミントン	○	△	<ul style="list-style-type: none"> <li>平日の練習は、各校舎で練習する。必要に応じて、木本校舎で合同練習する場合もある。</li> <li>土日は木本校舎で合同練習する。令和8年度は木本校舎での活動を基本とする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>令和7年度の県総体は、校舎別に参加する(木本・熊野青藍木本校舎と紀南・熊野青藍紀南校舎の2チーム)。</li> <li>県総体以降は、木本・紀南・熊野青藍の3校合同で参加する。</li> </ul>
男子バドミントン		○	<ul style="list-style-type: none"> <li>紀南校舎で活動する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>令和7年4月から、紀南・熊野青藍(両校舎)の合同チームで参加する。</li> </ul>
女子バレーボール	○		<ul style="list-style-type: none"> <li>木本校舎で活動する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>令和7年4月から、木本・熊野青藍(両校舎)の合同チームで参加する。</li> </ul>
体操	○		<ul style="list-style-type: none"> <li>木本校舎で活動する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>令和7年4月から、木本・熊野青藍(両校舎)の合同チームで参加する。</li> </ul>
卓球	△	○	<ul style="list-style-type: none"> <li>平日の練習は、各校舎で練習する。必要に応じて、紀南校舎で合同練習する。</li> <li>水・日曜日は原則、紀南校舎で合同練習する場合もある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>令和7年4月から、木本・紀南・熊野青藍の3校すべての部員が熊野青藍高校卓球部として参加する。</li> </ul>
柔道	○		<ul style="list-style-type: none"> <li>木本校舎で活動する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>令和7年4月から、木本・熊野青藍(両校舎)の合同チームで参加する。</li> </ul>
剣道	○		<ul style="list-style-type: none"> <li>木本校舎で活動する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>令和7年4月から、木本・熊野青藍(両校舎)の合同チームで参加する。</li> </ul>

部活動名	設置・活動の有無		普段の活動場所等	大会等参加
	木本校舎	紀南校舎		
茶道	○	○	・各校舎で活動する。	・研修会には木本・紀南・熊野青藍の3校合同で参加する。
書道	○	○	・各校舎で活動する。必要に応じて、合同で活動する場合もある。	・令和7年度は、校舎別に参加する(木本・熊野青藍木本校舎と紀南・熊野青藍紀南校舎の2つ)。
吹奏楽	○	△	・木本校舎での活動を基本とする。 ・平日の練習は、紀南校舎の生徒は紀南校舎で練習する場合もある。	・令和7年4月から、木本・紀南・熊野青藍の3校すべての部員が熊野青藍高校吹奏楽部として登録する。 ・熊野青藍1年生は、木本校舎での活動を基本とする。
JRC(青少年赤十字)	○	○	・各校舎で活動する。	・令和7年度は、校舎別に参加する(木本・熊野青藍木本校舎と紀南・熊野青藍紀南校舎の2つ)。 ・令和9年度も校舎別で大会に参加する。
美術	○	○	・各校舎で活動する。	・令和7年度は、校舎別に参加する(木本・熊野青藍木本校舎と紀南・熊野青藍紀南校舎の2つ)。
漫画研究	○		・木本校舎で活動する。	・令和7年4月から、木本・熊野青藍(両校舎)の合同チームで参加する。
写真	○		・木本校舎で活動する。	・令和7年4月から、木本・熊野青藍(両校舎)の合同チームで参加する。
放送	○		・木本校舎で活動する。	・令和7年4月から、木本・熊野青藍(両校舎)の合同チームで参加する。
家庭		○	・紀南校舎で活動する。 ・ただし、令和8年度末で活動を終了する。	

※△がある部活動は、メインの練習は○の校舎で行うが、△の校舎にも練習場所がある

## 校歌・校章について

### 1 校歌・校章制定委員会の設置

委員構成：両校の同窓会長、校長、教頭、ワーキング総務部会員  
計 11 名

### 2 制定委員会の開催日及び協議概要

#### (1) 第 1 回校歌・校章制定委員会（令和 6 年 5 月 14 日）

- ・ 校歌・校章に関する検討事項を確認し、それぞれ制定の方向性を協議
- ・ 校章デザイン案について、在校生から募集することを決定
  - 在校生へ校章デザイン案を募集  
(令和 6 年 5 月 16 日から 6 月 7 日まで)

#### (2) 第 2 回校歌・校章制定委員会（令和 6 年 6 月 14 日）

- ・ 校歌制作の委託先について候補を挙げて協議
- ・ 校章デザイン案から候補 4 点を選定
  - 在校生による校章デザイン案 4 点への投票を実施  
(令和 6 年 6 月 24 日から 6 月 28 日まで)

#### (3) 第 3 回校歌・校章制定委員会（令和 6 年 7 月 1 日）

- ・ 校歌の制作委託先について、作詞・作曲それぞれの候補を複数挙げ、依頼順を決定
- ・ 校章のデザイン案について、在校生の投票結果を踏まえ、最終案 1 点を選定

#### (4) 第 4 回校歌・校章制定委員会（令和 6 年 10 月 1 日）

- ・ 校歌の制作委託先を報告
- ・ 業者に委託した校章デザインについて協議し、一部修正

### 3 校章の制定について

#### (1) 協議の経過

##### (第 1 回)

- ・ 新しい学校（校名）になるので、新しい校章を作ることとした。
- ・ 両校在校生の思いを熊野青藍高等学校に引き継ぐという観点で、両校の在校生に校章のデザイン案を募集することに決定した。

##### (第 2 回)

- ・ 在校生から応募のあったデザイン案 18 点から、委員による投票を行い、候補を 4 点に絞り込んだ。

##### (第 3 回)

- ・ 絞り込んだ 4 案に対し、両校在校生による投票（総数 624 票）を行い、その結果を踏まえて最終案 1 点を決定した。
- ・ 選考に際しては、デザイン案そのものと、そのデザイン案に込めた意味や理由等も含め、熊野青藍高等学校の特色等が適切・的確に表現されていることを重視した。

(第4回)

- ・ 決定したデザイン案をもとに、業者に校章作成を委託して一部修正を行った。
- ・ 完成した校章をもとに校旗の発注を行うことを決定した。

#### 4 校歌の制定について

##### (1) 協議の経過

(第1回)

- ・ 新しい学校(校名)になることもあり、新しい校歌を制定することとした。
- ・ 現在の両校校歌については各校舎の「校舎歌」として活用していくこととした。

(第1回～第3回)

- ・ 校歌制定方法として、次のような方向性で協議してきた。
  - ① 木本・紀南両校の校歌の内容と、熊野青藍高校の学校像や新校名に込められた思い等を十分踏まえた校歌を制作
  - ② 紀南地域に在住または縁のある方で、木本・紀南両高等学校及び紀南地域の教育や生活に関する知識・見識を有し、なおかつ楽曲制作に必要なスキルを持つ方へ、校歌制作業務を委託
  - ③ 場合によっては、専門業者へ委託することも検討

(第4回)

- ・ 作詞家、作曲家へ正式に制作を委託することを決定した。
- ・ 校歌完成後、音源用の録音及び吹奏楽演奏用の編曲について検討
- ・ 体育館ステージ横の校歌の掲示及び歌碑の制作について協議

#### 5 今後の予定

- |        |                  |
|--------|------------------|
| 令和7年1月 | 第5回校歌・校章制定委員会を開催 |
| 2月     | 校歌と校章を公表         |
| 4月     | 開校式で校歌・校章を披露     |

## 入学者選抜について

「令和 7 年度三重県高等学校入学者選抜実施要項（令和 6 年 10 月）」より

### 1 入学定員

全日制	木本校舎	普通科	120名
		総合学科	40名
定時制	紀南校舎	総合学科	40名
	木本校舎	普通科	40名

### 2 前期選抜

- ・ 実施学科：全日制木本校舎総合学科、紀南校舎総合学科
  - ・ 募集枠：各校舎・各学科定員40名の30%
  - ・ 検査：学力検査（国語）、個人面接（10分程度）
  - ・ 検査会場：紀南高等学校
- ※ 志願者は、前期選抜を実施する高等学校の学科・コースのうち、1校の1学科・コースについてのみ出願できる。なお、分校は1校とみなす。

### 3 後期選抜

- ・ 実施学科：全日制 木本校舎普通科、木本校舎総合学科、紀南校舎総合学科  
：定時制 木本校舎普通科
  - ・ 検査：全日制 学力検査（国語・数学・社会・英語・理科）  
定時制 学力検査（国語・数学）、個人面接、作文
  - ・ 検査会場：木本高等学校
- ※ 志願者は、後期選抜を実施する高等学校の学科・コースのうち、1校の1学科・コースに限り志願できる。ただし、同一高等学校に設置する同一課程（全日制・定時制）内の、異なる学科・コースに限り第2志望とすることができる。
- なお、熊野青藍高等学校全日制課程については、同一校舎の異なる学科又は異なる校舎の学科を第2志望とすることができる。
- 例① 第1志望：木本校舎 普通科 → 第2志望：木本校舎 総合学科  
例② 第1志望：紀南校舎 総合学科 → 第2志望：木本校舎 総合学科
- ※ なお、普通科のコース（特進・普通）については、合格発表後に入学者の希望をふまえ、入学時まで決定する。

下線部は令和6年10月に公表された入学者選抜実施要項にて、新たに記載された内容です。

## 開校式・入学式について（案）

## 1 日時 ※注記参照

令和7年4月9日（水）

熊野青藍高校開校式 13：30～14：25

第1回熊野青藍高校入学式 14：45～（開校式に引き続き）

## 2 場所

熊野青藍高等学校 紀南校舎 体育館

## &lt;考え方&gt;

- 熊野青藍高校は2校舎を一体的に運用し、両校舎が一体となった活動も行うこととしており、このことから、入学式や卒業式、入学者選抜等についても両校舎を使用することを基本とする。式典についても、校舎を交互に使用し、新校最初の卒業式を木本校舎で、新校最初の入学式を紀南校舎で実施することとする。

	令和7年度	令和8年度	令和9年度
入学式	紀南校舎	木本校舎	紀南校舎
卒業式			木本校舎

- 開校式については、過去の例にもならい入学式の前に実施することとし、令和7年度第1回入学式を紀南校舎で実施する。

## 注記

「1 日時」については、協議会当日にワーキングリーダーより報告された内容に修正してあります。

<修正前（当日資料）>

令和7年4月8日（火）

熊野青藍高校開校式 13：30～14：25

第1回熊野青藍高校入学式 14：30～（開校式に引き続き）